

# いつでも使える水道を未来へ

## 宝塚市水道ビジョン2035（案） 及び宝塚市水道事業経営戦略（案） に係るパブリック・コメントを実施します



新しい水道管へ



地震に強い配水池へ



市民とともに生活を守る活動へ

募集期間：令和 8 年（2026年）1 月 5 日（月）～ 2 月 4 日（水）

皆さんの **ご意見** を聴かせてください！！

宝塚市では、水道施設の老朽化対策や耐震化対策を踏まえた今後の水道事業の取組に関して、市民の皆さんからのご意見を募集します。

パブリック・コメント制度とは、

市が計画や条例を策定するときに、市民の皆さんから広くご意見をお聴きし、一緒に考え、決めていこうという制度です。（宝塚市市民パブリック・コメント条例）

<お問合せ先>

宝塚市上下水道局経営管理部経営企画課

E-mail:m-takarazuka0290@city.takarazuka.lg.jp

詳細はこちら→



## 宝塚市水道ビジョン2035(案)及び宝塚市水道事業経営戦略

### (案)への意見募集について

#### 1 宝塚市水道ビジョン2035(案)及び宝塚市水道事業経営戦略(案)とは

「宝塚市水道ビジョン2035」は、令和8年度(2026年度)から令和17年度(2035年度)までの宝塚市水道事業の目指すべき方向性や実現方策を示すものです。「第6次宝塚市総合計画」を上位計画とし、厚生労働省が平成25年(2013年)に策定した「新水道ビジョン」に示された「安全」、「強靱」、「持続」に「経営」を加えた観点から基本施策と具体的対策を示しています。併せて、「宝塚市水道事業経営戦略」を策定し、「宝塚市水道ビジョン2035」で掲げる目標を実現するため、必要な投資と財源とのバランスに配慮した実行計画を示しています。

#### 2 宝塚市水道ビジョン2035(案)及び宝塚市水道事業経営戦略(案)策定の経過

この計画(案)の策定にあたり、令和6年(2024年)12月に宝塚市上下水道事業審議会に諮問を行いました。これを受けて、以下のとおり宝塚市上下水道事業審議会において審議を実施し、計画(案)をまとめました。今後、パブリック・コメント手続を実施したのち、宝塚市上下水道事業審議会において計画(案)を決定し、市長へ答申する予定です。

令和6年(2024年)12月2日	第2回宝塚市上下水道事業審議会 水道ビジョン2025検証報告(H28~R5) 下水道ビジョン2025検証報告(H28~R5)
令和6年(2024年)12月20日	第3回宝塚市上下水道事業審議会 水道ビジョン2025検証報告書(H28~R5) (案)の修正について 水道ビジョン2035骨子(案)について 下水道ビジョン2035骨子(案)について
令和7年(2025年)4月14日	第1回宝塚市上下水道事業審議会 水道ビジョン2035(案)について (本編(案)、施設の老朽化対策と耐震化)

令和7年(2025年) 6月 2日	第2回宝塚市上下水道事業審議会 水道ビジョン 2035(案)について (R6・7年度水道料金の検証)
令和7年(2025年) 6月10日	第3回宝塚市上下水道事業審議会 水道ビジョン 2035(案)について (本編(案)の修正)
令和7年(2025年) 6月30日	第4回宝塚市上下水道事業審議会 水道事業経営戦略(案)について 下水道事業経営戦略(案)について (財政計画(案))
令和7年(2025年) 8月 (書面審議)	第5回宝塚市上下水道事業審議会 水道ビジョン2035(案)について 下水道ビジョン2035(案)について (本編の修正)
令和7年(2025年) 9月 (書面審議)	第6回宝塚市上下水道事業審議会 水道事業経営戦略(案)について 下水道事業経営戦略(案)について (本編の修正)
令和7年(2025年) 10月 10日	第7回宝塚市上下水道事業審議会 水道ビジョン 2035(案)について 下水道ビジョン 2035(案)について (書面審議質疑の回答、本編の修正)
令和7年(2025年) 10月 27日	第8回宝塚市上下水道事業審議会 水道事業経営戦略(案)について 下水道事業経営戦略(案)について (書面審議質疑の回答、本編の修正)
(以下、日程・項目は予定です。)	
令和8年(2026年) 1月5日 ~2月4日	パブリック・コメント
令和8年(2026年) 2月下旬	第9回宝塚市上下水道事業審議会
令和8年(2026年) 3月上旬	市長へ答申

宝塚市上下水道事業審議会は知識経験者3名、公共的団体の代表4名、公募による市民3名の計10名で構成されています。委員名簿は別添のとおりです。

また、あわせて令和7年(2025年)4月に「宝塚市上下水道事業の経営改革に関する検討会」を設置し、上下水道事業の抱える課題解決に向けて市長部局との連携を図っています。

### 3 宝塚市水道ビジョン2035(案)及び宝塚市水道事業経営戦略(案)策定のポイント

#### (1) 趣旨・目的・背景

平成28年(2016年)に「宝塚市水道ビジョン2025」「宝塚市水道事業経営戦略」を策定し10年間の取組と目標を示し、様々な施策に取り組んできました。この10年間に新型コロナウイルスの世界的流行、令和6年能登半島地震をはじめとする地震災害、老朽化による水道施設の事故、さらに有機フッ素化合物(PFAS)のような水質にかかわる問題など水道事業に大きく影響を及ぼす出来事がありました。これらの災害や老朽化事故を防ぐため耐震化や老朽化対策が急務となり、対策には多額の資金が必要となります。一方で水道事業は人口減少、社会全体で節水意識の高まりが進む中で今後収益の大幅な減少が見込まれます。

このような厳しい環境の変化や多様な課題に対応し、持続可能な水道事業運営を実現するため、新たな水道ビジョン及び水道事業経営戦略を策定するものです。

#### (2) 考え方・論点

基本理念として「安全で持続可能な「宝」の水道を未来へ」を掲げ、「安全・強靱」、「効率・再編」、「安定経営」、「連携・協働」の4つの柱からなる基本方針を定めています。

「安全・強靱」 老朽化による事故や地震災害から市民のくらしを守り、安全な水道水を安定して届ける

「効率・再編」 効率的効果的な水道システムを再構築する

「安定経営」 経営基盤を強化し、効率化・合理化を推進する

「連携・協働」 広報活動の充実により、市民との協働を推進し官民・広域連携を強化する

今回の計画(案)では、今後の水需要の減少に伴う施設の統廃合やダウンサイジングを新たな取組として追加する一方、水道管路の更新については一律的な更新から市民生活に大きな影響がある重要なものに集中投資を行う考え方に転換します。そしてそれらの投資に必要な財源を確保するため、水道事業が安定して持続可能な経営を行うことができる水道料金の水準・体系への見直しを4年ごとに検証します。

また、4つの柱には重要指標を設定し、特に重点的に取り組む施策の進捗管理を行うこととしています。

#### 4 意見募集の目的

「宝塚市水道ビジョン 2035」(案)及び「宝塚市水道事業経営戦略」(案)策定の趣旨や内容等について、広く公表し、計画(案)に市民の皆様からの意見を反映するため、意見募集を行います。なお、意見募集のため公表する内容は、以下のとおりです。

- ① 「宝塚市水道ビジョン 2035」(案)及び「宝塚市水道事業経営戦略」(案)に対する意見募集
- ② 別紙「意見提出用紙」
- ③ 「宝塚市水道ビジョン 2035」(案)の概要版、「宝塚市水道事業経営戦略」(案)の概要版
- ④ 「宝塚市水道ビジョン 2035」(案)及び「宝塚市水道事業経営戦略」(案)

#### 5 宝塚市水道ビジョン2035(案)及び宝塚市水道事業経営戦略(案)策定の公表方法について

パブリックコメントの計画書(案)の概要版・本編は、市ホームページ及び市の窓口にて公表しています。

##### (1) 市ホームページ(<http://www.city.takarazuka.hyogo.jp>)

ア 宝塚市上下水道局経営管理部経営企画課のページ

イ トップページから「宝塚市水道事業ビジョン2035」(案)、「宝塚市水道事業経営戦略」(案)で検索するか、または「検索性 ID:1016073」を入力し検索することもできます。



二次元コード

##### (2) 市の窓口

上下水道局経営企画課、市役所市民相談課、各サービスセンター・サービスステーション及び公民館(休館中の東公民館を除く。)で公表しています。

#### 6 意見の募集期間

令和8年(2026年)1月5日(月)から2月4日(水)まで

#### 7 意見の提出方法

##### (1) 別紙「意見提出用紙」による提出

必要事項を記入し、案に関する意見を記載して提出してください。任意の用紙で

提出していただく場合は、別紙「意見提出用紙」に記載のある項目（氏名、住所、電話番号等）すべてを明記してください。

意見が複数ある場合は、意見ごとに意見対象箇所（全般もしくは特定部分）がわかるように記載してください。

提出方法は、経営企画課への提出・郵送・ファクシミリ・電子メールのいずれかの方法により、募集期間内にご提出ください。ただし、郵送の場合は、令和8年（2026年）2月4日必着とします。

正確な聴き取りができずご意見を取り違える可能性がありますので、電話などによる口頭での意見提出はできません。

## (2) 電子申請による提出

兵庫県電子申請共同運営システム(e-ひょうご)から提出してください。



(ダミー)  
二次元コード

## 8 提出先・問い合わせ先

〒665-0032 宝塚市東洋町1-3

「宝塚市上下水道局経営管理部経営企画課」

電話番号 0797-77-2104(直通)

ファクシミリ 0797-72-5381

電子メールアドレス m-takarazuka0290@city.takarazuka.lg.jp

※上下水道局経営管理部経営企画課は宝塚市役所第二庁舎2階です。

## 9 意見の公表について

氏名、住所、電話番号等の個人情報は、一切公表しません。提出いただいた意見（パブリック・コメント）については、個人の権利利益を害するおそれのある情報等を除き、その全体を取りまとめた上で、意見の採否及び上下水道局の考え方とともに市ホームページで公表するほか、上下水道局経営企画課（市役所第二庁舎2階）、市役所市民相談課、各サービスセンター・サービスステーション及び公民館（休館中の東公民館を除く。）で配布します。

なお、提出いただいた意見に対する個別の回答はしませんので、ご了承ください。

## 10 個人情報等の取扱について

意見の提出に際して記載された氏名、住所、電話番号等の個人情報は、①本人確認、②本人からの問い合わせ対応、③意見の内容について上下水道局から本人への問い合わせのために利用することがあります。個人情報については厳正に保管し、他の目的には一切使用しません。第三者に提供することはありません。

## 宝塚市上下水道事業審議会委員名簿

構 成	氏 名	役 職 名 等
知識経験者	くわた やすこ 鋏田 泰子 ◎	神戸大学大学院工学研究科教授
	おさき たいら 尾崎 平 ○	関西大学環境都市工学部教授
	あだち よしみ 足立 泰美	甲南大学経済学部経済学科教授
市内の公共的 団体等の代表	いまざと ありとし 今里 有利	宝塚商工会議所 工業部会幹事
	やまもと としはる 山本 敏晴	宝塚市自治会連合会 理事
	いけがみ ようこ 池上 陽子	特定非営利活動法人 消費者協会宝塚
	みずたに きみたか 水谷 公隆	宝塚料飲綜合組合 理事
公募の市民	おくの あつし 奥野 敦士	公募委員
	しょうの たつや 庄野 達也	公募委員
	せき よしとも 関 義友	公募委員

(◎…会長 ○…会長職務代理者)

(敬称略・順不同)



# 宝塚市水道ビジョン2035が始まります！

市民のみなさまの生活基盤を支える重要な社会インフラとしての役割を果たすため、  
 これからの10年間に取り組むべき事業と、その目標を定めます。

○ 新技術や資産管理を活用した  
 ○ 効率的・効果的な  
 ○ **老朽化対策**に取り組みます。

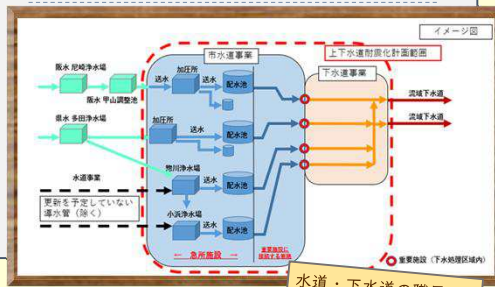
管の材質	使用年数
ダクタイル鋳鉄管	103年
普通鋳鉄管	送水管：61年 配水管等：76年
鋼管(ステンレス管)	173年
塩化ビニル管	送水管：62年(使用なし) 配水管等：71年
コンクリート管	87年

老朽化のため、更新します！

⇒ 本編22ページ

令和6年能登半島地震を  
 きっかけに  
**上下水道一体での  
 耐震化**に取り組みます。

⇒ 本編24ページ



水道・下水道の職員が  
 一体となり作った計画！  
 救急告示病院までの  
 施設を耐震化します！

水質や施設を  
**適切に維持管理**します。

有機フッ素化合物(PFOS・PFOA)の  
**低減対策**に取り組みます。

各系統での2025年6月の測定結果例 [ng/L]

豊川浄水場	小浜浄水場	阪神水道企業団	兵庫県水道
5未満	30	5未満	5未満

※国の基準値は50ng/L

国の基準値の半分以下  
 (25ng/L)が目標です！

⇒ 本編27ページ

## 安全・強靱

～ 老朽化による事故や  
 地震災害から市民の  
 暮らしを守り、安全な  
 水道水を安定して届ける～



## 効率・再編

～ 効率的かつ効果的な  
 水道システムを  
 再構築する～



安定した水道水の  
 供給のため、  
 湧水対策・省エネルギー対策など、  
**水運用の効率化**に  
 取り組みます。

⇒ 本編42ページ



小浜浄水場の  
 太陽光パネル

## 安全で持続可能な「宝」の水道を未来へ

## 安定経営

～ 経営基盤を強化し、  
 効率化・合理化を  
 推進する～



## 連携・協働

～ 広報活動の充実により  
 市民との協働を推進し、  
 官民・広域連携を  
 強化する～



市ホームページや広報誌の内容を  
 充実させ、効果的な広報を目指します。

災害に備え、応急給水拠点の拡充や  
 給水訓練に取り組みます。

官民・下水道・近隣自治体との  
**連携**を目指します。

⇒ 本編50ページ

持続可能な経営にするため、  
 料金体系などを検証し、  
**料金回収率の向上**に取り組みます。

企業債の抑制に取り組みます。



⇒ 本編44ページ

詳細は「経営戦略」を  
 ご覧ください！

## 宝塚市水道ビジョン2035を支える基本理念と4つのキーワード！



← 市民と職員での給水訓練  
 小学生の社会科見学 →

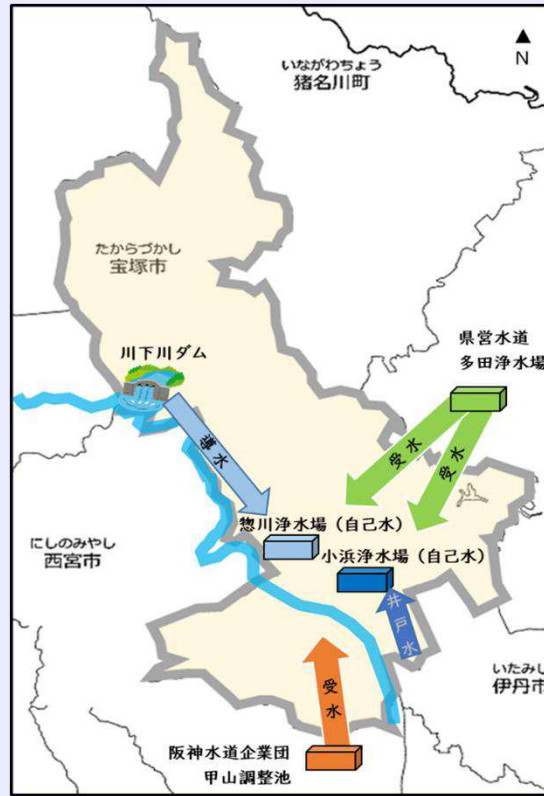
# 宝塚市の水道

## 宝塚市の水源

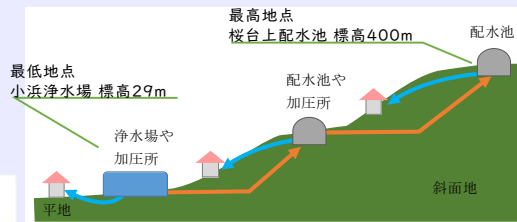
宝塚市の水道事業は、昭和27年(1952年)に宝塚町(旧小浜村)で通水を開始し、平成2年(1990年)より兵庫県営水道、平成29年(2017年)より阪神水道企業団から受水しています。

図のように、ダム水や井戸水による自己水以外にも複数の水源を確保することは、**渇水対策にもつながり、安定した水道水の供給を実現**できます。

宝塚市は地形の影響で高低差が多く、加圧送水するための施設が多いのが特徴です。



宝塚市の水源



地形的な特徴の概略図

## 地形的な特徴

本市では、高度成長期に南部市街地の斜面地に住宅が広がったため、平地にある浄水場から住宅地へ向けて**加圧送水**を行う施設(加圧所)や、高地に水を貯めるための**配水池**が各所に必要となりました。

さらに、山麓部や北部地域に水道施設や管路を整備してきたこともあり、近隣自治体に比べ**水道施設が多く、施設の維持管理や老朽化に伴う更新等にかかる費用が大きくなる**傾向があります。



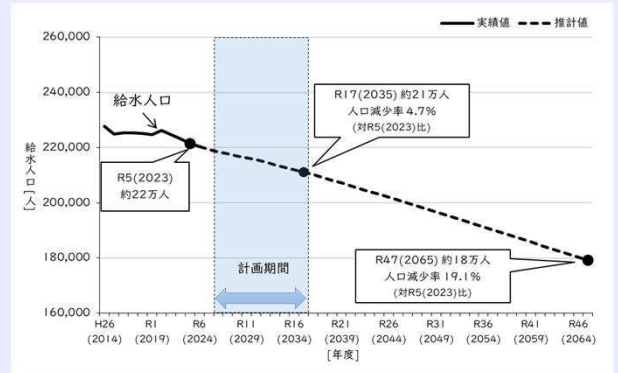
給水人口あたりの水道施設数の近隣市との比較

## 【有収水量と給水収益】

給水人口は緩やかに減少し、令和5年度(2023年度)と比べ、10年後には約5%、40年後には約19%減少すると見込まれます。**有収水量**(水の使用量)も減少傾向が続き、令和47年度(2065年度)には約21%減少すると予測されています。

**給水収益**は4年ぶりに料金改定したこともあり**一時的に増加するもの**、令和47年度(2065年度)には約19%(約8億円)減少する**見込み**です。

## 宝塚市水道事業の現状と基本課題



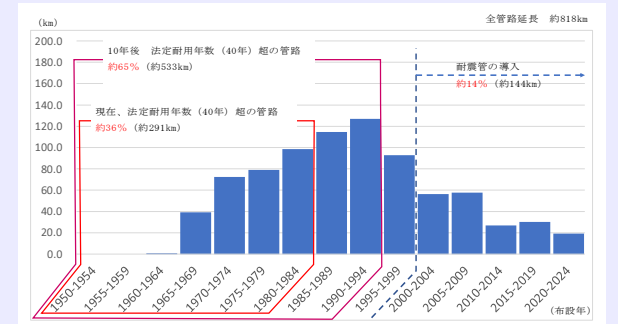
給水人口の推移

## 【水道施設の老朽化・耐震化対策】

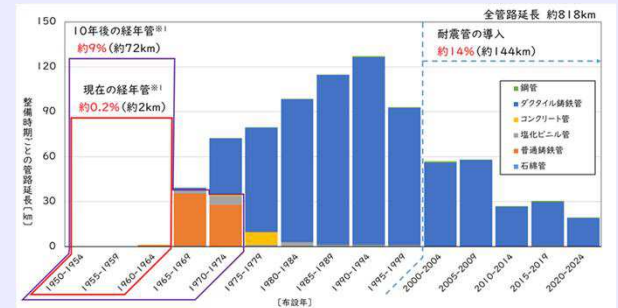
市内2つの浄水場は耐震対策が施され法定耐用年数を超過していませんが、**老朽化**や水質に影響を与える新たなリスク要因など、将来の在り方を検討する必要があります。配水池、加圧所は10年後に過半数が法定耐用年数を超える見込みであり、**施設の統廃合などによる投資額を抑えた更新**が必要です。

管路は、法定耐用年数を超える管路が10年後には約65%に増加する見込みです。そのため、AIなど新技術を活用して管の材質ごとの使用年数を見直し、**計画的かつ効率的な経年管の更新**を行う必要があります。

※グラフデータは令和5年(2023年)時点



法定耐用年数による管路の整備時期



管路(経年管)の整備時期

### Point !

- ・自然災害や施設の老朽化など水道事業を取り巻く環境の変化を踏まえて、**変化に応じて新たに取り組むべきこと**と、今後も変わらず取り組み続けるべきことを改めて整理しました。
- ・人口減少等による収益の減少が見込まれる一方、施設の更新や耐震化に多くの費用が発生することから、**多様な課題に対応するための方針**として、「宝塚市水道ビジョン2035」を策定します。

# 宝塚市水道事業経営戦略【概要版】（案）

## 01 経営戦略の位置付け、計画期間及び事業概要

### ●位置付け

宝塚市水道事業経営戦略は、本市水道事業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画です。

宝塚市水道ビジョン2035の基本理念である「安全で持続可能な「宝」の水道を未来へ」の実現に向けた具体的取組の実行計画として、**持続可能な水道事業の実現**を目指します。

### ●計画期間

令和8年度(2026年度)～  
令和17年度(2035年度)の10年間

### ●事業概要

#### (1)給水

本市は、昭和27年(1952年)より宝塚町(旧小浜村)にて通水を開始しました。以来、第7期までの拡張事業を実施し、市民の水需要に応じてきました。平成15年(2003年)には、北部地域の簡易水道事業を南部地域の水道事業と統合しており、行政区域内普及率は99.9%となっています。

#### (2)施設

本市は、自己水源に加え、平成2年(1990年)より兵庫県営水道から、さらに、平成29年(2017年)より阪神水道企業団からの受水を開始し、安定した水道水の供給を実現しています。

また、南北に長い地形から近隣の自治体に比べ管路延長が長く、また高低差もあるため配水池や加圧所の数が多い上、これらの稼働率が高いというのが本市の特徴です。



宝塚市における水源  
(R7.3.31現在)

水源 <<割合>>	ダム水(川下川貯水池) <<21.9%>>、地下水<<20.0%>> → 自己水<<41.9%>> 兵庫県営水道からの受水<<26.8%>>、阪神水道企業団からの受水 <<31.3%>>			
施設数	浄水場設置数	2	管路延長	導水管 16,522m
	配水池設置数	48		送水管 77,001m
	加圧所設置数	28		配水管 726,208m
施設能力	77,500m <sup>3</sup> /日		合計 819,731m	
施設利用率	85.96%			

#### (3)水道料金

本市の水道料金は、令和6年(2024年)4月に、昭和55年(1980年)1月以来、44年ぶりの値上げとなる料金改定を実施しました。一般用については、口径別料金体系を採用しており、口径別の基本料金と使用水量が増えるに従い単価が高くなる段階的増量料金を設定しています。

また、公衆浴場用、臨時用については、それぞれ基本料金と単一従量料金を設定しています。

#### (4)組織体制

本市では、令和7年(2025年)5月1日現在、上下水道局全体で2部6課1室体制(水道事業会計の職員数76人(会計年度任用職員を除く。))で事業を運営しており、令和6年度(2024年度)に策定した「宝塚市上下水道局定員適正化計画」のもと、定員の適正化に努めています。

## 02 現状と課題、将来予測

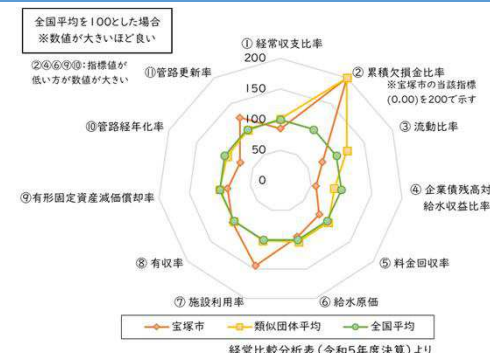
### ●経営比較分析表を活用した現状分析

<経営の健全性・効率性>

**6年連続で経常収支比率が100%を下回っていることや料金回収率の低さ、流動比率低下や企業債依存の高さ**など課題がある一方、施設利用率は高く運営効率は良好です。

<老朽化の状況>

管路の経年化率が他の類似団体及び全国平均よりも高くなっており、管路延長が長いことから今後はAIなど新技術を活用した効率的な更新を行う必要があります。

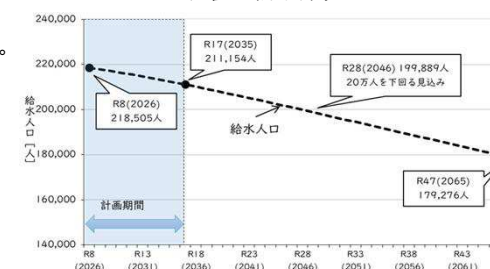


経営比較分析表

### ●水道事業を取り巻く環境

#### (1)給水人口・水需要の減少

給水人口は減少傾向が続き、令和17年度(2035年度)には約21万人と予測しています。人口減少に伴い有収水量も減少するため、**料金収入の減少**が見込まれます。



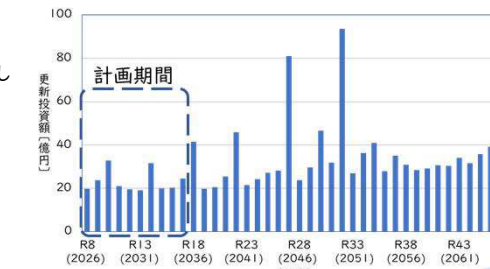
給水人口の推計

#### (2)物価の高騰

昨今の世界情勢や円安の影響を受け、建設資材、動力費、薬品費、労務費などの維持管理費や工事費用が上昇しており、今後も**物価高騰が続く**見込みです。

#### (3)金利の上昇

長年の超低金利政策が終了し、借入金利が上昇しています。これにより、従来の40年償還(5年据置)の企業債の借入方針では対応が難しくなっており、借入方針の見直しを行うなど**急激な金利の上昇への対応**が必要です。



アセットマネジメントによる更新需要の算定

#### (4)更新需要

更新需要が増大する中、施設を適正な状態で維持するため、老朽化施設の更新は**緊急度や重要度に応じて優先順位を明確にして実施**することが必要です。

#### (5)自然災害の激甚化・頻発化

令和6年能登半島地震をはじめ、大規模地震や台風・集中豪雨などの自然災害が多発しており、**地域のインフラや市民生活への被害**、停電による広域的な断水など社会全体への大きな影響が懸念されます。

#### (6)水源水質の課題

川下川貯水池でのアオコの大量発生による**かび臭**や、地下水からの**PFAS(有機フッ素化合物)**の検出など、新たなリスク要因が水道水の水質に影響を与えており、今後も別のリスクが生じる可能性があります。



令和6年能登半島地震  
穴水町での応急復旧応援活動

# 宝塚市水道事業経営戦略【概要版】(案)

## 03 経営の基本方針と主な施策

### ●経営の基本方針

これまでの経営状況及び水道事業を取り巻く環境を踏まえ、将来にわたって事業を継続するために、4本の柱からなる経営の基本方針を定めました。

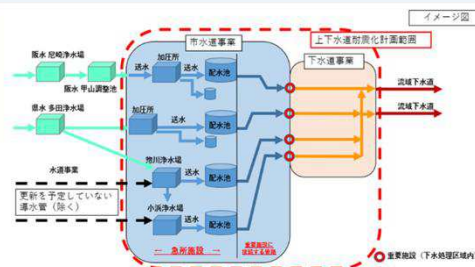
この基本方針に基づき、**9つの施策(取組項目)**を推進していきます。

4本の柱	基本方針	9つの取組項目
I 安全・強靱	老朽化による事故や地震災害から市民のくらしを守り、安全な水道水を安定して届ける	①老朽化対策と耐震化の推進 ②水質管理の充実と水道施設の適切な維持管理 ③危機管理体制の強化と事故発生リスクの低減
II 効率・再編	効率的かつ効果的な水道システムを再構築する	④基幹施設 <sup>※</sup> の統廃合と施設規模の適正化 ⑤水源の有効活用と水運用の効率化
III 安定経営	経営基盤を強化し、効率化・合理化を推進する	⑥料金水準の適正化と定期的な検証 ⑦適切な組織体制と人材育成・技術の継承
IV 連携・協働	広報活動の充実により市民との協働を推進し、官民・広域連携を強化する	⑧広報活動の充実や市民との協働の推進 ⑨官民連携の推進と上下水道一体化・近隣自治体との広域連携の取組

### ●主な取組内容と事業費

#### (1)管路耐震化事業(取組項目①)【131.1億円】

上下水道耐震化計画に基づき、5か所の救急告示病院に繋がる管路の耐震化に取り組みます。



#### (2)耐震診断等(取組項目①)【4.9億円】

重要施設の耐震診断を最優先で行い、配水池・加圧所の耐震化に取り組みます。

配水池	重要施設	その他施設	合計
耐震化合格施設	5か所	8か所	13か所
耐震化一部合格施設(全水圧2.2mのうち1mが合格)	3か所	3か所	6か所
耐震化未整備施設	5か所	17か所	22か所
結露等耐震化対策外施設	4か所	3か所	7か所
			計48か所

加圧所	重要施設	その他施設	合計
耐震化合格施設	8か所	7か所	15か所
耐震化未整備施設	5か所	5か所	10か所
結露等耐震化対策外施設	2か所	1か所	3か所
			計28か所

#### (3)管路更新事業(取組項目①)【16.2億円】

更新対象施設や管路の想定使用年数を見直した計画に基づき、着実な管路更新に取り組みます。

管の材質	今回計画
ダクタイル鋳鉄管	103年
普通鋳鉄管	61年(送水管)
鋼管(ステンレス管)	76年(配水管など)
塩化ビニル管	173年
コンクリート管	71年(配水管など)
用途	今回計画
導水管	対象外(更新予定なし)
送水管	対象
配水管	※統廃合事業で廃止する施設に接続する管路は対象外

項目	今回計画
計画の対象(管路関係)	宝塚市上下水道耐震化計画
更新・耐震化の対象	・すべての送水管 ・救急告示病院(5か所)に繋がる配水管 ・送水管 約21km ・配水管 約4km ・集中投資

#### (4)再構築事業(取組項目④⑤)【31.5億円】

施設の統廃合による維持管理費の削減及び効率的な水運用に取り組みます。



## 04 投資計画と財政計画

### ●9つの施策を反映した財政計画

#### 【現行料金を据え置いた場合】

※端数処理のため、計算は合わない場合がある。

(単位:億円)

	R6実績	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
収益的収入	46.0	48.1	48.3	47.9	47.6	47.3	47.0	46.7	46.3	45.9	45.7
給水収益	37.2	40.3	40.2	40.0	39.8	39.6	39.5	39.2	39.0	38.8	38.8
分担金	1.6	1.3	1.5	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
長期前受金戻入	4.5	4.1	4.0	3.9	3.8	3.7	3.5	3.4	3.2	3.1	2.9
その他	2.6	2.5	2.5	2.8	2.7	2.7	2.7	2.8	2.8	2.8	2.8
収益的支出	47.4	48.4	50.8	51.5	52.4	52.8	53.1	53.6	54.7	55.6	56.7
人件費	7.4	7.6	7.5	7.4	7.3	7.0	6.8	6.6	6.2	6.3	6.3
受水費	12.5	12.5	13.9	13.9	13.9	13.9	13.9	13.9	13.9	13.9	13.9
物件費等	13.0	13.9	14.9	15.1	15.3	15.6	15.9	16.3	16.5	16.8	17.1
減価償却費	12.6	12.3	12.4	12.5	12.8	12.8	12.6	12.6	13.1	13.2	13.6
支払利息	1.8	2.1	2.1	2.5	3.1	3.5	3.9	4.2	4.9	5.3	5.7
その他	0.0	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1
資本的収入	15.3	9.1	24.1	31.9	21.8	17.2	15.6	29.2	17.5	17.7	20.0
企業債	15.0	2.4	17.6	24.5	15.9	16.0	14.5	27.4	16.3	16.4	18.4
国庫補助金	0.0	0.6	1.2	2.0	1.1	1.0	0.9	1.6	1.0	1.0	1.3
貸付金返還金	0.0	1.6	3.1	5.2	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.4	4.4	2.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
資本的支出	23.9	27.3	30.8	39.9	27.9	27.3	28.2	41.3	30.3	31.3	36.3
建設改良費	16.8	19.9	23.7	33.0	21.1	19.5	19.2	31.7	20.0	20.5	24.5
企業債償還金	7.1	7.3	7.1	6.9	6.8	7.8	9.0	9.6	10.2	10.8	11.8
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
当期純利益	△1.4	△0.3	△2.6	△3.5	△4.8	△5.6	△6.1	△7.0	△8.4	△9.6	△11.0
経常収支比率	96.9%	97.4%	95.0%	93.1%	90.8%	89.5%	88.5%	87.0%	84.6%	82.7%	80.7%
料金回収率	87.3%	91.3%	86.2%	84.4%	82.2%	80.9%	80.1%	78.4%	76.2%	74.3%	72.4%
資金残高	25.4	18.8	20.0	20.1	20.0	15.1	7.2	0.3	△9.3	△20.6	△35.1
企業債残高	165.3	163.9	174.5	192.0	201.1	209.3	214.7	232.5	238.5	244.2	250.8
企業債残高対給水収益比率	444.6%	407.1%	434.0%	480.6%	505.5%	528.3%	543.2%	592.6%	611.1%	628.6%	647.1%

#### 当期純損益

計画期間内の**全ての年度において赤字(当期純損失)**が発生

#### 経常収支比率

徐々に減少し、最終年度には**80.7%まで低下**(参考 R5類似団体平均:109.67%)

#### 料金回収率

徐々に減少し、最終年度には**72.4%まで低下**(参考 R5類似団体平均:101.11%)

#### 資金残高

令和15年度に**資金ショート**する見込み

#### 企業債残高対給水収益比率

**647.1%まで増加**する見込み(参考 R5類似団体平均:301.23%)

⇒**令和15年度(2033年度)には資金が枯渇し、事業継続が困難**となる見通し

<持続可能な経営を行うためには>

水道事業を安定的に継続するためには、**事業運営に必要な資金を確保**するとともに**黒字(当期純利益)を維持できる経営に転換**する必要があるため、**4年ごと**に適正な料金水準の検証を行います。

※料金水準の検証については、上下水道事業審議会へ諮問を行い、様々な視点から答申をいただく予定です。

## 05 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

毎年度、重要指標の進捗を確認します。

なお、**受水費単価の変更**や**水質検査基準の厳格化**など、現在未反映の事項に経営環境の変化が生じた場合、また新たな経営健全化や財源確保に係る取組が具体化した場合などは、中間検証時に見直しを行い、その内容を反映した経営戦略に改定します。

みなさまのご意見を募集します!!  
パブリック・コメントはこちらのQRコードから⇒



# 未来のために**いま**、下水道を考える

## 宝塚市下水道ビジョン2035（案） 及び宝塚市下水道事業経営戦略（案） に係るパブリック・コメントを実施します



老朽化・耐震化対策



大雨など災害対応



浸水対策

募集期間：令和**8**年（2026年）1月5日（月）～2月4日（水）

皆さんの**ご意見**を聴かせてください！！

宝塚市では、下水道施設の老朽化対策や耐震化対策、浸水対策を踏まえた今後の下水道事業の取組に関して、市民の皆さんからのご意見を募集します。

パブリック・コメント制度とは、

市が計画や条例を策定するときに、市民の皆さんから広くご意見をお聴きし、一緒に考え、決めていこうという制度です。（宝塚市市民パブリック・コメント条例）

<お問合せ先>

宝塚市上下水道局経営管理部経営企画課

E-mail:m-takarazuka0290@city.takarazuka.lg.jp

詳細はこちら→



宝塚市下水道ビジョン2035(案)及び宝塚市下水道事業経営戦略  
(案)への意見募集について

1 宝塚市下水道ビジョン2035(案)及び宝塚市下水道事業経営戦略(案)とは  
「宝塚市下水道ビジョン2035」は、令和8年度(2026年度)から令和17年度(2035年度)までの宝塚市下水道事業の目指すべき方向性や実現方策を示すものです。「第6次宝塚市総合計画」を上位計画とし、国土交通省が令和4年(2022年)に改訂した「新下水道ビジョン加速戦略」に示された施策との整合を図っています。併せて、「宝塚市下水道事業経営戦略」を策定し、「宝塚市下水道ビジョン2035」で掲げる目標を実現するため、必要な投資と財源とのバランスに配慮した実行計画を示しています。

2 宝塚市下水道ビジョン2035(案)及び宝塚市下水道事業経営戦略(案)策定の経過

この計画(案)の策定にあたり、令和6年(2024年)12月に宝塚市上下水道事業審議会に諮問を行いました。これを受けて、以下の通り宝塚市上下水道審議会において審議を実施し、計画(案)をまとめました。今後、パブリック・コメント手続を実施したのち、宝塚市上下水道事業審議会において計画(案)を決定し、市長へ答申する予定です。

令和6年(2024年)12月2日	第2回宝塚市上下水道事業審議会 水道ビジョン2025検証報告(H28~R5) 下水道ビジョン2025検証報告(H28~R5)
令和6年(2024年)12月20日	第3回宝塚市上下水道事業審議会 水道ビジョン2025検証報告書(H28~R5) (案)の修正について 水道ビジョン2035骨子(案)について 下水道ビジョン2035骨子(案)について
令和7年(2025年)2月21日	第4回宝塚市上下水道事業審議会 下水道ビジョン2035(案)について (本編(案))

令和7年(2025年) 3月 7日	第5回宝塚市上下水道事業審議会 下水道ビジョン 2035(案)について (財政計画(案)と経営指標)
令和7年(2025年) 3月31日	第6回宝塚市上下水道事業審議会 下水道ビジョン 2035(案)について (本編(案)の修正、経営指標の設定)
令和7年(2025年) 6月30日	第4回宝塚市上下水道事業審議会 水道事業経営戦略(案)について 下水道事業経営戦略(案)について (財政計画(案))
令和7年(2025年) 8月 (書面審議)	第5回宝塚市上下水道事業審議会 水道ビジョン2035(案)について 下水道ビジョン2035(案)について (本編の修正)
令和7年(2025年) 9月 (書面審議)	第6回宝塚市上下水道事業審議会 水道事業経営戦略(案)について 下水道事業経営戦略(案)について (本編の修正)
令和7年(2025年) 10月 10日	第7回宝塚市上下水道事業審議会 水道ビジョン 2035(案)について 下水道ビジョン 2035(案)について (書面審議質疑の回答、本編の修正)
令和7年(2025年) 10月 27日	第8回宝塚市上下水道事業審議会 水道事業経営戦略(案)について 下水道事業経営戦略(案)について (書面審議質疑の回答、本編の修正)
(以下、日程・項目は予定です。)	
令和8年(2026年) 1月5日 ~2月4日	パブリック・コメント
令和8年(2026年) 2月下旬	第9回宝塚市上下水道事業審議会
令和8年(2026年) 3月上旬	市長へ答申

宝塚市上下水道事業審議会は知識経験者3名、公共的団体の代表4名、公募による市民3名の計10名で構成されています。委員名簿は別添のとおりです。

また、あわせて令和7年(2025年)4月に「宝塚市上下水道事業の経営改革に関する検討会」を設置し、上下水道事業の抱える課題解決に向けて市長部局との連携を図っています。

### 3 宝塚市下水道ビジョン2035(案)及び宝塚市下水道事業経営戦略(案)策定のポイント

#### (1) 趣旨・目的・背景

平成28年(2016年)に「宝塚市下水道ビジョン2025」「宝塚市下水道事業経営戦略」を策定し10年間の取組と目標を示し、「快適な生活環境の保全」「公共用水域の水質保全」及び「浸水の防除」に取り組んできました。しかし、この10年間に新型コロナウイルスの世界的流行、令和6年能登半島地震をはじめとする地震災害、埼玉県八潮市で起きた下水道施設の老朽化による大規模な道路陥没事故、さらに近年全国各地で局地的大雨・ゲリラ豪雨に対する浸水が起っています。このような災害や異常気象による被害、老朽化の事故を防ぐためには耐震化や老朽化対策、浸水対策が急務となり、それらの対応には多額の資金が必要となります。一方で下水道事業は人口減少による収益の減少が見込まれるとともに、今後10年以降に本格的な老朽化した管渠が増加していく見込みです。

このような厳しい環境の変化や多様な課題に対応し、持続可能な下水道事業運営を実現するため、新たな下水道ビジョン及び下水道経営戦略を策定するものです。

#### (2) 考え方・論点

基本理念として「安全で持続可能な「宝」の下水道を未来へ」を掲げ、「安全・強靱」、「安心・快適」、「安定経営」、「連携・協働」の4つの柱からなる基本方針を定めています。

「安全・強靱」 大雨や地震などの災害から市民のくらしを守り備える

「安心・快適」 市民の快適なくらしを保つ

「安定経営」 経営基盤を強化し、効率化・合理化を推進する

「連携・協働」 市民の下水道への理解を形成し、民間企業・上水道との連携を強化する

今回の計画(案)では、令和6年能登半島地震を教訓にした上下水道一体での耐震化を新たに追加したとともに、さらなる効率性や経済性の向上が期待できる官民連携方式であるウォーターPPPの導入についても検討しています。そして計画実現への投資(ウォーターPPPは対象外)に必要な財源を確保するため、下水道事業が安定して持続可能な経営を行うことができるよう下水道使用料の水準・体系への見

直しを4年ごとに検証します。

また、4つの柱には重要指標を設定し、特に重点的に取り組む施策の進捗管理を行うこととしています。

#### 4 意見募集の目的

「宝塚市下水道ビジョン2035」(案)及び「宝塚市下水道事業経営戦略」(案)策定の趣旨や内容等について、広く公表し、計画(案)に市民の皆様からの意見を反映するため、意見募集を行います。なお、意見募集のため公表する内容は、以下のとおりです。

- ① 「宝塚市下水道ビジョン2035」(案)及び「宝塚市下水道事業経営戦略」(案)に対する意見募集
- ② 別紙「意見提出用紙」
- ③ 「宝塚市下水道ビジョン2035」(案)の概要版、「宝塚市下水道事業経営戦略」(案)の概要版
- ④ 「宝塚市下水道ビジョン2035」(案)及び「宝塚市下水道事業経営戦略」(案)

#### 5 宝塚市下水道ビジョン2035(案)及び宝塚市下水道事業経営戦略(案)策定の公表方法について

パブリック・コメントの計画書(案)の概要版・本編は、市ホームページ及び市の窓口にて公表しています。

##### (1) 市ホームページ(<http://www.city.takarazuka.hyogo.jp>)

ア 宝塚市上下水道局経営管理部経営企画課のページ

イ トップページから「宝塚市下水道ビジョン2035(案)」、「宝塚市下水道事業経営戦略(案)」で検索するか、または「検索用 ID:1016073」を入力し検索することもできます。



二次元コード

##### (2) 市の窓口

上下水道局経営企画課、市役所市民相談課、各サービスセンター・サービスステーション及び公民館(休館中の東公民館を除く。)で公表しています。

## 6 意見の募集期間

令和8年(2026年)1月5日(月)から2月4日(水)まで

## 7 意見の提出方法

### (1) 別紙「意見提出用紙」による提出

必要事項を記入し、案に関する意見を記載して提出してください。任意の用で提出していただく場合は、別紙「意見提出用紙」に記載のある項目(氏名、住所、電話番号等)すべてを明記してください。

意見が複数ある場合は、意見ごとに意見対象箇所(全般もしくは特定部分)がわかるように記載してください。

提出方法は、経営企画課への提出・郵送・ファクシミリ・電子メールのいずれかの方法により、募集期間内にご提出ください。ただし、郵送の場合は、令和8年(2026年)2月4日必着とします。

正確な聴き取りができずご意見を取り違える可能性がありますので、電話などによる口頭での意見提出はできません。

### (2) 電子申請による提出

兵庫県電子申請共同運営システム(e-ひょうご)から提出してください。



(ダミー)  
二次元コード

## 8 提出先・問い合わせ先

〒665-0032 宝塚市東洋町1-3

「宝塚市上下水道局経営管理部経営企画課」

電話番号 0797-77-2104(直通)

ファクシミリ 0797-72-5381

電子メールアドレス m-takarazuka0290@city.takarazuka.lg.jp

※上下水道局経営管理部経営企画課は宝塚市役所第二庁舎2階です。

## 9 意見の公表について

氏名、住所、電話番号等の個人情報は、一切公表しません。提出いただいた意見(パブリック・コメント)については、個人の権利利益を害するおそれのある情報等を

除き、その全体を取りまとめた上で、意見の採否及び上下水道局の考え方とともに市ホームページで公表するほか、上下水道局経営企画課（市役所第二庁舎2階）、市役所市民相談課、各サービスセンター・サービスステーション及び公民館（休館中の東公民館を除く。）で配布します。

なお、提出いただいた意見に対する個別の回答はしませんので、ご了承ください。

#### 10 個人情報等の取扱いについて

意見の提出に際して記載された氏名、住所、電話番号等の個人情報は、①本人確認、②本人からの問い合わせ対応、③意見の内容について上下水道局から本人への問い合わせのために利用することがあります。個人情報については厳正に保管し、他の目的には一切使用しません。第三者に提供することはありません。

## 宝塚市上下水道事業審議会委員名簿

構 成	氏 名	役 職 名 等
知識経験者	くわた やすこ 鋤田 泰子 ◎	神戸大学大学院工学研究科教授
	おさき たいら 尾崎 平 ○	関西大学環境都市工学部教授
	あだち よしみ 足立 泰美	甲南大学経済学部経済学科教授
市内の公共的 団体等の代表	いまざと ありとし 今里 有利	宝塚商工会議所 工業部会幹事
	やまもと としはる 山本 敏晴	宝塚市自治会連合会 理事
	いけがみ ようこ 池上 陽子	特定非営利活動法人 消費者協会宝塚
	みずたに きみたか 水谷 公隆	宝塚料飲綜合組合 理事
公募の市民	おくの あつし 奥野 敦士	公募委員
	しょうの たつや 庄野 達也	公募委員
	せき よしとも 関 義友	公募委員

(◎…会長 ○…会長職務代理者)

(敬称略・順不同)

# 宝塚市下水道ビジョン2035が始まります！

市民のみなさまの生活基盤を支える重要な社会インフラとしての役割を果たすため、  
これからの10年間に取り組むべき事業と、その目標を定めます。

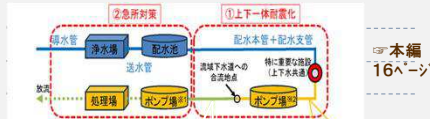


局地的大雨・ゲリラ豪雨に備えた  
**浸水対策**に取り組みます。



本編14ページ

令和6年能登半島地震を  
きっかけに  
**上下水道一体での  
耐震化**に取り組みます。



本編16ページ



水道・下水道の  
職員が一体となり  
計画を作りました！  
耐震化を  
進めていきます！

下水道施設の  
劣化状態を詳細に把握し、  
修繕や改築につなげ、  
汚水の水質を監視するなど、  
適切に**維持管理**します。

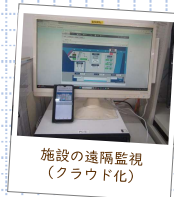


テレビカメラを入れて  
下水道施設を視覚的に調査

本編22ページ



〇月△日 水質調査



施設の遠隔監視  
(クラウド化)

市民のくらしを守るため  
**防災・減災対策**に  
取り組みます。



水路の  
巡視と清掃



排水ポンプでの  
水防活動の様子

本編18ページ

## 安全・強靱

～ 大雨や地震などの  
災害から市民のくらし  
を守り備える ～

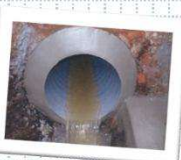


## 安心・快適

～ 市民の快適な  
くらしを保つ ～



令和7年1月に埼玉県八潮市内で  
起きた流域下水道管の破損・  
道路陥没事故を教訓として、  
**老朽化対策**を強化します。



本編28ページ

## 安全で持続可能な 「宝」の下水道を未来へ

持続可能な経営にするため、  
料金体系などを検証します。

積極的な国庫補助金の活用を  
目指します。



本編32ページ

詳細は「経営戦略」を  
ご覧ください！

## 安定 経営

～ 経営基盤を強化し、  
効率化・合理化を  
推進する ～



## 連携・協働

～ 市民の下水道への  
理解を形成し、  
民間企業や上水道との  
連携を強化する ～



災害対策に関する情報など、  
**満足度の高い情報発信**  
を目指します。

官民連携などにより、  
**市民サービスの向上**  
を目指します。

上水道、近隣自治体との  
**連携**を目指します

本編38ページ

## 宝塚市下水道ビジョン2035を 支える基本理念と 4つのキーワード！

マンホールカードを  
指定の施設で配布しています！

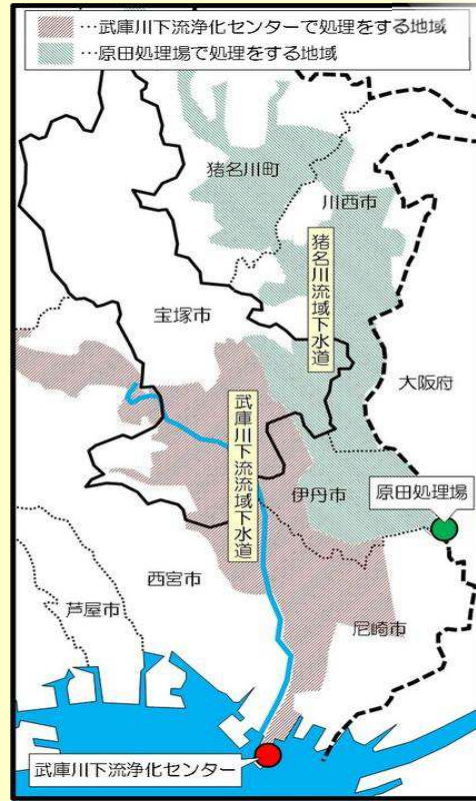


# 宝塚市の公共下水道

## 汚水処理・雨水処理としての下水道の役割

毎日のくらしのなかで、台所、洗濯、炊事、風呂、トイレなどから出る生活排水や工場などから出る排水を汚水と呼びます。下水道は、この汚水を適切に処理し、「**快適な生活環境の保全**」及び「**公共用水域の水質保全**」に寄与する役割があります。本市の汚水処理は、南部地域と北部地域とで処理方式が異なり、南部地域では公共下水道に接続し、また、北部地域では合併処理浄化槽を設置し処理を行っています。なお、本市は都道府県が保有する終末処理場へ2以上の市町村が接続し処理を行う**武庫川下流域下水道**と**猪名川流域下水道**の2つの流域下水道へ接続しています。

また、下水道は汚水処理のみならず、「**浸水の防除**」のための**雨水排水**の役割も担っており、本市では汚水と雨水を分離して排除する方式である**分流式**を採用しています。雨水事業については、1時間当たりの雨量46.84mm(6年に1回の確率)の降雨強度を対象に雨水排水計画を策定しています。



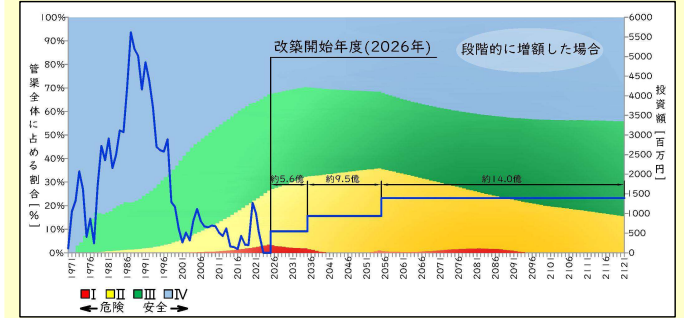
流域下水道施設の位置

宝塚市は2つの流域下水道・処理場につながっています

## 宝塚市公共下水道事業の現状と基本課題

### 【下水道ストックマネジメント計画の推進】

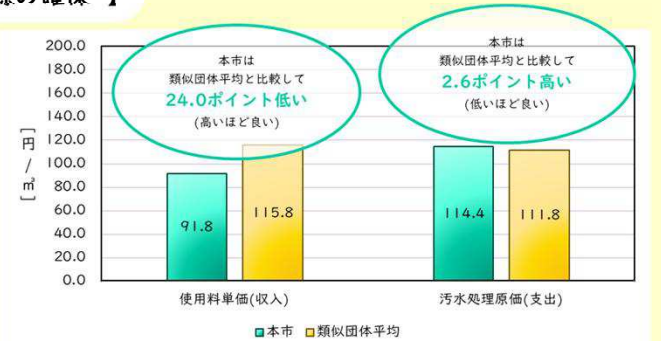
本市では老朽化管渠の増加に伴い改築事業への投資額(建設改良費)を段階的に増加させ、**施設全体が比較的健全な状態に保たれるよう、計画的かつ効率的に下水道事業を推進していく**必要があります。このように、施設の**状態と効果的な投資**を検討したものが**下水道ストックマネジメント計画**です。



投資額と管渠の緊急度予測結果

### 【計画的な投資を支える財源の確保】

将来にわたって**安定的かつ持続的に下水道サービスを提供していく**ためには、計画的な投資を支える財源を確保していく必要があります。今後は人口減少などにより一層、経営環境が厳しくなることから、**使用料改定により、適正な使用料収入の確保に努める**必要があります。

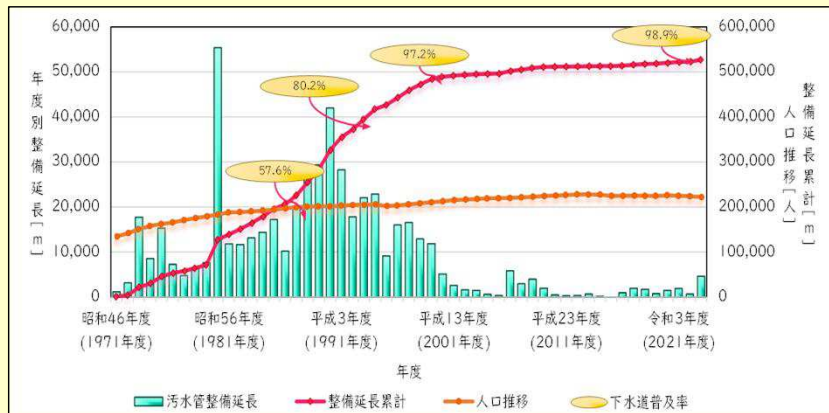


本市と類似団体平均との使用料単価及び汚水処理原価の比較

## 下水道整備と人口普及率の変遷

本市の下水道(汚水)管路施設は、昭和46年度(1971年度)から整備を開始しました。その後、人口が増加した昭和50年度(1975年度)頃から震災の直前まで集中的に整備し、下水道(汚水)人口普及率は8割を超えました。「宝塚市私道排水設備布設工事助成制度」を設け、私道部の管渠布設を支援し、また、市民の水洗化工事に対して補助金または貸付金による助成制度「宝塚市水洗便所改造資金助成制度」を実施することでも、

下水道(汚水)人口普及率と水洗化率の向上に努めてきました。その結果、令和5年度(2023年度)末時点の**下水道(汚水)人口普及率は、市全体で98.9%**、北部地域の合併処理浄化槽の処理人口を除く市街化区域のみでは**99.8%**となっています。また、管渠の総延長は約539km、水洗化率は**99.6%**であり、整備・普及ともに概成しています。



下水道(汚水)管路整備延長と人口推移、下水道(汚水)人口普及率

### Point!

- ・公共下水道事業の抱える課題が顕在化してきた現在、これまでの10年間とこれからの10年間では公共下水道事業に求められることや取り組むべきことが異なってきました。
- ・より効率的かつ効果的に事業を運営していくため、抜本的に考え方を**変えるべき部分**と、**普遍的な課題として踏襲すべき部分**を見極め、本市の課題を改めて抽出しました。
- ・人口減少等による収入減少が見込まれる一方、施設の更新や耐震化に多くの費用が発生することから、**多様な課題に対応するための方針として、「宝塚市下水道ビジョン2035」を策定**します。

# 宝塚市下水道事業経営戦略【概要版】（案）

## 01 経営戦略の位置付け、計画期間及び事業概要

### ●位置付け

宝塚市下水道事業経営戦略は、本市下水道事業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画です。

宝塚市下水道ビジョン2035の基本理念である「安全で持続可能な「宝」の下水道を未来へ」の実現に向けた具体的取組の実行計画として、**持続可能な下水道事業の実現**を目指します。

### ●計画期間

令和8年度(2026年度)～令和17年度(2035年度)の10年間

### ●事業概要

#### (1)施設

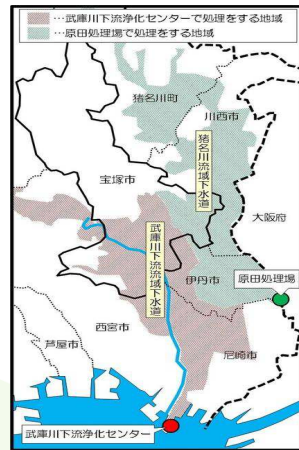
本市は、行政区域面積10,189haのうち、3,022haを公共下水道(汚水・雨水)の全体計画面積と定め、汚水と雨水を分けて排除する分流式下水道を採用し、計画的な整備や維持管理を進めています。

#### 【汚水処理】

本市には下水処理場がありません。本市の汚水は、武庫川河口にある武庫川下流浄化センターと大阪国際(伊丹)空港に隣接する原田処理場で処理しています。

#### 【雨水処理】

市内を武庫川水系と猪名川水系の2系統に区分し、さらに27か所の排水区に区分し、排水区ごとに各水系河川へ排水しています。自然流下での排水が原則ですが、低地帯にはポンプ場を設置しており、市内に武庫川ポンプ場と西田川ポンプ場の2施設を有しています。



流域下水道施設の位置

(R7.3.31現在)

供用開始年月日	昭和49年9月1日 (1974年)	現在処理区域内人口	225,432人
法適(全部・財務) ・非適の区分	全部適用	現在水洗化人口	224,454人
		処理区域内人口密度	91.1人/ha
流域下水道への接続の有無	有		
	接続先 ・武庫川下流流域下水道(武庫川下流浄化センター) ・猪名川流域下水道(原田処理場)		

### (2)下水道使用料

下水道使用料は、一般用については単一の基本使用料と使用水量が増えるに従い単価が高くなる段階的の逦増従量料金を設定しており、公衆浴場用については、基本使用料と単一従量使用料を設定しています。

また、企業活動に伴い工場、事業所等から排除される汚水のうち、一定の水質基準を超えるものについて使用料を加算することとしています。

### (3)組織体制

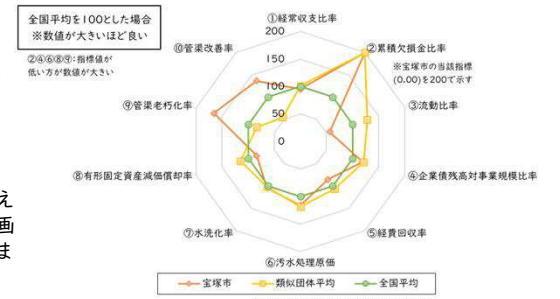
本市では、令和7年(2025年)5月1日現在、上下水道局全体で2部6課1室体制(下水道事業会計の職員数23人(会計年度任用職員を除く。))で事業を運営しており、令和6年度(2024年度)に策定した「宝塚市上下水道局定員適正化計画」のもと、定員の適正化に努めています。

## 02 現状と課題、将来予測

### ●経営比較分析表を活用した現状分析

<経営の健全性・効率性>

「③流動比率」「⑤経費回収率」について、類似団体の水準を下回っており経営改善が必要です。



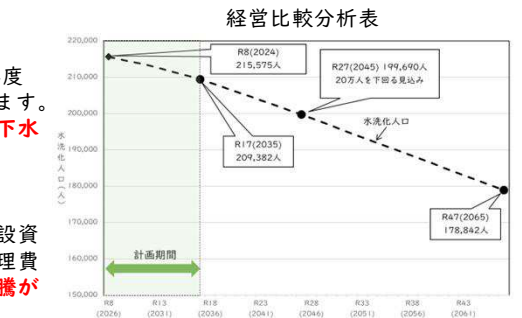
<老朽化の状況>

今後、徐々に法定耐用年数を超えた管が増えてくることから、ストックマネジメント計画に基づいて管渠の改善を進める必要があります。

### ●下水道事業を取り巻く環境

#### (1)水洗化人口・有収水量の減少

水洗化人口は減少傾向が続き、令和17年度(2035年度)には約21万人と予測しています。人口減少に伴い有収水量も減少するため、**下水道使用料の減少**が見込まれます。



水洗化人口の推計

#### (2)物価の高騰

昨今の世界情勢や円安の影響により、建設資材、動力費、薬品費、労務費などの維持管理費や工事費用が上昇しており、今後も**物価高騰**が続く見込みです。

#### (3)金利の上昇

長年の超低金利政策が終了し、借入金利が上昇しています。これにより、従来の40年償還(5年据置)の企業債の借入方針では対応が難しくなっており、借入方針の見直しを行うなど、**急激な金利の上昇への対応**が必要です。



埼玉県の陥没事故の概況

(出典)国土交通省「八潮市における道路陥没事故の概要」より

#### (4)下水道に起因する事故(道路陥没)

令和7年1月に埼玉県八潮市の県道において、下水道管の破損に起因する**大規模な陥没事故**が発生しており、本市でも陥没事故が起きないように点検・調査により管路施設の状態を把握したうえで適切に維持管理を行う必要があります。

#### (5)自然災害の激甚化・頻発化

令和6年能登半島地震をはじめ、大規模地震や台風・集中豪雨などの自然災害が多発しており、**地域のインフラや市民生活への被害**を抑えるため、浸水対策や耐震化など早急な対応が必要です。



下水処理場に送る圧送管の被災(珠洲市)

(出典)国土交通省「令和6年能登半島地震における上下水道施設被害と今後の地震対策、災害対応の在り方」より

#### (6)更新需要

更新需要が増大する中、施設を適正な状態で維持するため、老朽化施設の更新は**緊急度や重要度に応じて優先順位を明確にして実施**することが必要です。

# 宝塚市下水道事業経営戦略【概要版】（案）

## 03 経営の基本方針と主な施策

### ●経営の基本方針

これまでの経営状況及び下水道事業を取り巻く環境を踏まえ、将来にわたって事業を継続するために、4本の柱からなる経営の基本方針を定めました。

この基本方針に基づき、**10の施策（取組項目）**を推進していきます。

4本の柱	基本方針	10の取組項目
I 安全・強靱	大雨や地震などの災害から、市民のくらしを守り備える	①浸水対策の推進 ②下水道施設（管路、ポンプ等）の耐震化の推進 ③危機管理体制の強化と防災・減災対策の充実
II 安心・快適	市民の快適なくらしを保つ	④下水道施設の適切かつ効率的な維持管理（汚水） ⑤下水道施設の適切かつ効率的な維持管理（雨水） ⑥管路施設※の老朽化対策の推進
III 安定経営	経営基盤を強化し、効率化・合理化を推進する	⑦使用料水準の適正化と定期的な検証 ⑧適切な組織体制と人材育成・技術の継承
IV 連携・協働	市民の下水道への理解を形成し、民間企業や上水道との連携を強化する	⑨広報活動の充実や市民との協働の推進 ⑩官民連携の推進と上下水道一体化の取組

※管きよ、マンホール、雨水吐き、吐口、ます及び取り付け管の総称

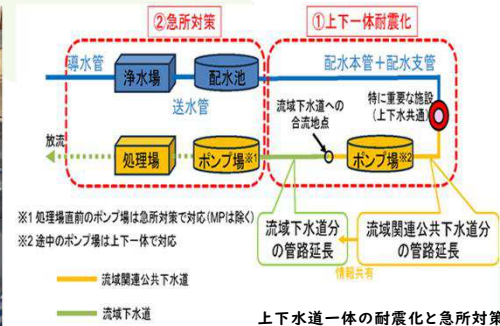
### ●主な取組内容と事業費

(1)浸水対策の推進(取組項目①)【13.7億円】  
水害危険予想箇所において、浸水軽減対策（雨水）に取り組みます。

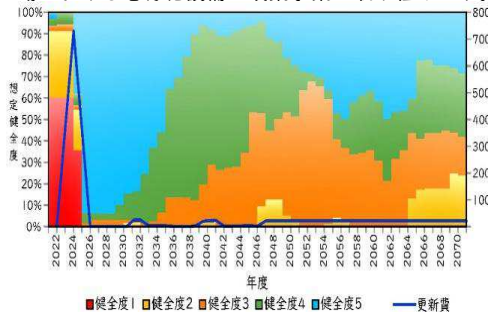


浸水対策地域の整備状況

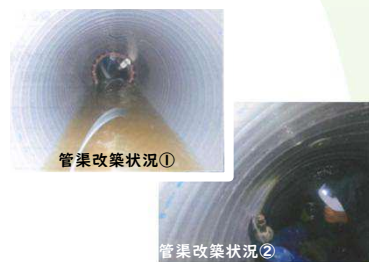
(2)耐震化の推進(取組項目②)【24.7億円】  
上下水道耐震化計画に基づき、汚水管路の耐震化事業に取り組みます。



(3)効率的な維持管理(取組項目⑤)【36.8億円】  
ストックマネジメント計画に基づき、雨水ポンプ場における老朽化設備の改築事業に取り組みます。



(4)老朽化対策の推進(取組項目⑥)【41.4億円】  
管路施設の老朽化に起因する事故などを防ぐため、施設の状態に応じた適切な修繕・改築事業に取り組みます。



## 04 投資計画と財政計画

### ●10の施策を反映した財政計画

#### 【現行使用料を据え置いた場合】

※端数処理のため、計算が合わない場合がある  
(単位：億円)

	R6実績	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
収益的収入	40.2	39.6	39.5	39.6	39.8	40.1	40.4	40.2	40.1	39.9	
下水道使用料	21.9	21.5	21.5	21.3	21.2	21.1	21.0	20.8	20.7	20.6	20.5
雨水処理負担金	6.6	6.8	6.7	6.8	6.9	7.4	7.8	7.8	7.9	8.2	8.1
他会計補助金	3.9	3.9	4.0	4.0	4.1	4.2	4.3	4.3	4.4	4.5	4.5
長期前受金戻入	7.0	6.5	6.5	6.6	6.7	6.5	6.4	6.3	6.1	5.9	5.7
その他	0.7	0.8	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0
収益的支出	40.0	40.9	41.5	43.0	44.2	44.6	45.0	45.7	46.4	46.8	47.4
人件費	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.5	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6
物件費等	15.0	15.5	16.0	16.4	16.7	17.0	17.3	17.7	18.1	18.4	18.8
減価償却費	21.3	21.2	21.3	22.0	22.5	22.5	22.4	22.4	22.5	22.2	22.1
支払利息	1.8	2.1	2.2	2.6	2.9	3.0	3.2	3.5	3.7	4.0	4.3
その他	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6
資本的収入	12.7	11.8	29.7	21.0	10.8	11.9	15.1	15.3	14.1	14.9	12.6
企業債	11.4	10.1	25.4	17.7	9.0	10.4	12.7	13.1	11.8	12.6	11.1
国庫補助金	0.3	1.0	3.7	2.5	0.9	0.7	1.5	1.5	1.6	1.5	0.7
その他	1.0	0.6	0.6	0.6	0.9	0.7	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7
資本的支出	27.0	27.5	45.8	38.2	26.6	22.8	26.2	25.9	25.9	26.0	22.7
建設改良費	5.8	10.4	25.4	18.2	11.5	12.6	15.8	16.1	16.3	16.1	13.8
企業債償還金	21.2	15.5	17.3	14.7	10.5	10.2	10.4	9.8	9.6	9.9	9.0
長期借入金償還金	0.0	1.6	3.1	5.2	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
当期純利益	0.2	△1.3	△2.0	△3.4	△4.4	△4.5	△4.6	△5.5	△6.2	△6.7	△7.4
経常収支比率	100.2%	96.8%	95.1%	92.1%	90.1%	89.9%	89.8%	88.0%	86.7%	85.7%	84.3%
経費回収率	82.9%	79.6%	77.3%	73.4%	70.6%	70.0%	69.5%	67.1%	65.3%	64.0%	62.4%
資金残高	4.0	1.9	0.8	0.2	1.5	3.2	4.7	6.2	6.0	6.0	6.0
企業債残高	139.7	142.8	150.9	153.8	152.3	152.5	154.8	158.1	160.3	163.1	165.2
企業債残高対事業規模比率	476.4%	554.9%	562.3%	563.3%	566.8%	576.8%	585.2%	600.2%	608.7%	619.3%	637.2%

当期純損益	計画期間内の全ての年度において赤字(当期純損失)が発生
経常収支比率	徐々に減少し、最終年度には <b>84.3%まで低下</b> (参考 R5類似団体平均:106.99%)
経費回収率	徐々に減少し、最終年度には <b>62.4%まで低下</b> (参考 R5類似団体平均:104.04%)
資金残高	令和10年度に2,000万円程度まで減少する見込み ⇒期中において工事などに必要な「前払金」の支払ができなくなる恐れがある
企業債残高対給水収益比率	<b>637.2%まで増加</b> の見込み(参考 R5類似団体平均:499.16%)

⇒計画期間前半で資金が枯渇する状況が続き、**事業継続が困難**

となる見通し

<持続可能な経営を行うためには>

下水道事業を安定的に継続するためには、**事業運営に必要な資金を確保**するとともに**黒字(当期純利益)を維持できる経営に転換**する必要があります。ため、**4年ごと**に適正な使用料水準の検証を行います。

※使用料水準の検証については、上下水道事業審議会へ諮問を行い、様々な視点から答申をいただく予定です。

### 05 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

毎年度、指標の進捗を確認します。

なお、**ウォーターPPPによる官民連携の取組**など、新たな経営健全化や財源確保に係る取組が具体化した場合は、中間検証時に見直しを行い、その内容を反映した経営戦略に改定します。

みなさまのご意見を募集します!!

パブリック・コメントはこちらのQRコードから⇒

